

大学において学んだカウンセリングの就職後の有用性について

井上 清子*・石川 洋子**

Usefulness of Counseling Taught in College in One's Later Career

Kiyoko INOUE, Hiroko ISHIKAWA

要旨 大学で学んだカウンセリングの卒業後の職業生活における有効性を検討するために、文教大学心理教育課程の卒業生 55 名を対象として、質問紙調査を行った。

対象者の約 8 割が保育士または教員として就職していた。「職業上カウンセリングは役立つと思うか」との問いに、「かなり役立つ」35 名 (63.6%)、「多少役立つ」19 名 (34.5%)、「どちらともいえない」1 名 (1.8%) で、「あまり役立たない」「まったく役立たない」と答えた者はいなかった。この結果から、就職後、保育士や教員として職業上大学で学んだカウンセリングが役立つことを実感している者が多いことが示唆された。

具体的に役立った場面としては、保護者を対象としたものが圧倒的に多く、保護者面談や日々の保護者対応において、受容と共感的理解、そして傾聴の姿勢が役立っていることが確認された。さらに、子ども対応や同僚との関係づくり、また対人関係全般を挙げた者も複数おり、ここでも傾聴や受容と共感的理解等のカウンセリングの基本的姿勢が身につけていることが良好な人間関係作りやコミュニケーションのために役立っていることが示唆された。

キーワード：カウンセリング 大学 授業 保育士 教員

I 研究目的

文教大学心理教育課程は、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭を目指す学生が多い。

現在、教員免許取得のためには、カウンセリングを含んだ教育相談等を必修科目として設定することが必要とされている。さらに、若林¹⁾の報告によると、関東地域の保育士養成校 34 校中 25 校 (71%) がカウンセリングの授業を取り入れており、31 校 (91%) が必要であると回答していた。教員や保育士には、カウンセリングの技能が必要と認識されているといえるだろう。

文教大学教育学部心理教育課程では、課程開設時から、教育学、保育学に加え、心理学系の授業を多数開講している。特にカウンセリングについ

ては、1 年時の必修科目である「カウンセリング」をはじめとして、選択科目として「カウンセリング演習」「心理アセスメント実習」「学校カウンセリング」「心理療法」などの授業があり、理論学習とともに事例検討やロールプレイなどの体験学習を行っている。

カウンセリング学習でのロールプレイとは、カウンセリングを学ぶ者同士が互いにカウンセラー役、クライアント役となり、カウンセリングに近い状況で関わり合いを行うことによって、カウンセリングを体験的に学習する方法である。本過程では、同じ科目を履修した同学年同士のカウンセリングロールプレイのみならず、「心理アセスメント実習」を履修した 3、4 年生がカウンセラー役、「カウンセリング」を履修した 1 年生がクライアント役となり、初対面の上級生から下級生へのピア・カウンセリングも行っている。

土屋²⁾は、全学をあげたピア・サポートの取り

*いのうえ きよこ 文教大学教育学部心理教育課程

**いしかわ ひろこ 文教大学教育学部心理教育課程

組みの中で、支援する側、支援される側双方に教育的効果が見られたことを報告している。

また加藤ら³⁾は、ピア・カウンセリング授業に関わった大学生の変化を2年にわたり調査し、経験を積んだ大学生がより相手の立場になり、また自分の立場に置き換えて振り返るようになったこと、ピア・カウンセリングの必要性を再認識し、エンパワーメントされたことなどを報告している。

山田⁴⁾は、各大学におけるピア・サポート活動の教育的効果を分析しているが、ピア・サポート活動推進に伴う課題をあげ、中でもサポーターへの訓練・トレーニングが重要であることを指摘している。

カウンセリングのロールプレイの体験学習の効果については、有沢ら⁵⁾が共感性の育成を、前堂⁶⁾がカウンセリングに対するイメージの変化を調べている。

大橋ら⁷⁾は、心理学の学習がその後の社会人生活でどのように役立ったかについてウェブ調査を行っている。

石川ら⁸⁾は、授業中に上級生がカウンセラー下級生がクライアントとなり、ピア・カウンセリングを行い、体験前後の変化を検討した。その結果、下級生・上級生共に、気分を調べるPOMS(短縮版)の得点は有意に改善し、カウンセリングについて「興味があるか」「自分自身に役立つか」「将来の職業に役立つか」という質問項目の得点は有意に上がっていた。

そこで今回は、「将来の職業に役立つか」を検証するために、心理教育課程の卒業生に質問紙調査を行い、在学中に学習したカウンセリングが、職業上実際に役立っているかを中心に検討した。

II 研究方法

1 対象

対象は、ホームカミングディに来校した文教大学教育学部心理教育課程の卒業生55名。

内訳は、女性52名、男性3名、平均年齢24.18 ± 2.33歳。回答時の職業は、保育所保育士26名(47.3%)、小学校教諭13名(23.6%)、幼稚園教諭3名(5.5%)、公務員3名(5.5%)、企業1名(1.8%)、その他(主婦、学生、アルバイト等)8名(14.5%)。平均勤務年数は、1.83 ± 1.91年であった。

2 実施時期および方法

2012年11月および2013年11月の心理教育課程ホームカミングディにおいて、封筒に入れた質問紙を配布した。表紙に記載した研究の趣旨を理解し同意が得られた者に無記名で回答してもらい、当日ボックスまたは後日郵送にて回収した。

III 結果と考察

1 在学中のカウンセリングへの関心および履修状況

「在学中、カウンセリングに興味は持てましたか」という問いに対して、5件法で回答を求めた。

その結果、「かなりあった」18名(32.7%)、「多少あった」29名(52.7%)、「どちらともいえない」5名(9.1%)、「あまりなかった」2名(3.6%)、「全くなかった」1名(1.8%)と、8割以上の者が、在学中にカウンセリングに関心を持てたことがわかった。

「在学中、心理学系の選択授業をたくさん受講しましたか」という問いに対して、「かなりした」26名(47.3%)、「多少した」24名(43.6%)、「どちらともいえない」2名(3.6%)、「あまりしなかった」2名(3.6%)、「全くしなかった」0名(0%)であった。ほとんどの者が、必修科目に加え心理学系の選択授業を受講しており、たくさん受講した者も多いことがわかった。

2 カウンセリングの授業の有用性

(1) カウンセリングの職業上の有用性

先に述べたように、心理教育課程では、保育士、

幼稚園教諭，小学校教諭を目指す学生が多く，今回の調査対象の卒業生も保育所保育士 26 名 (47.3%)，小学校教諭 13 名 (23.6%)，幼稚園教諭 3 名 (5.5%) と，約 8 割が，保育士または教員として就職していた。

「職業上カウンセリングは役立つと思うか」との問いに，「かなり役立つ」35 名 (63.6%)，「多少役立つ」19 名 (34.5%)，「どちらともいえない」1 名 (1.8%) で，「あまり役立たない」「まったく役立たない」と答えた者はいなかった。この結果から，就職後，保育士や教員として職業上カウンセリングが役立つことをほとんどの者が実感していることが確認された。

(2) カウンセリングについての学びが役立った場面

「在学中学んだカウンセリングのスキルや知識が役立った具体的場面」について，自由記述で回答を求めた結果を場面（相手）別にすべて記載したものが表 1 である。

具体的に役立った場面としては，保護者を対象としたものが圧倒的に多く，保護者面談や日々の対応での関係づくりに，受容と共感的理解，そして傾聴の姿勢が役立っていることが伺える。相談やクレームに対しても役立ったとの回答もあった。

さらに，子ども対応や同僚との関係づくり，また対人関係全般を挙げた者も複数おり，ここでも傾聴や受容と共感的理解等のカウンセリングの基本的姿勢が身につけていることが良好な人間関係作りやコミュニケーションのために役立っていることが示唆された。

3 就職後のカウンセリング学習

「今後，カウンセリングについてもっと学びたいと思うことはありますか」という問いに対して 5 件法で回答を求めたところ，「かなりある」19 名 (34.5%)，「多少ある」28 名 (50.9%)，「どちらともいえない」4 名 (7.3%)，「あまりない」2 名 (3.4%)，「まったくない」1 名 (1.8%) であっ

た。8 割以上の者が，さらにカウンセリングを学びたいと思っており，石川ら⁹⁾が埼玉県内の保育士，幼稚園教諭を対象としてカウンセリング学習のニーズについて調べた調査でも，約 85% の者が「機会があれば研修会等に参加したい」と回答していたことと，ほぼ同様の結果が得られた。

学びたい内容について自由記述で回答を求めた結果を表 2 にまとめた。

対象としては，保護者や子どもの他，障害や病を持った保護者や子どもなど特定の対象とのカウンセリングについて学びたいという回答が複数あった。事例やコミュニケーションスキルをさらに深く学びたいという回答も多く，「在学中に学んだことをもう一度学びたい。今もう一度学んだらもっと理解が深まりより活用できる。」「大学時代教えていただいた事でも忘れてしまっていることも正直多い。社会に出て改めてカウンセリングの必要性を実感し，もっとしっかり勉強しておくべきだったと後悔している。再度学びたい。」というような大学の授業の再学習を望む回答もあり，卒後教育の充実の必要性が示唆された。

5 まとめ

大学で学んだカウンセリングの卒業後の職業生活における有効性を検討するために，文教大学心理教育課程の卒業生 55 名を対象として，質問紙調査を行った。

約 8 割が保育士または教員として就職していた。「どちらともいえない」と回答した 1 名以外は，職業上カウンセリングは役立つと答えた。

具体的に役立った場面としては，保護者を対象としたものが圧倒的に多く，保護者面談や日々の対応での関係づくりに，受容と共感的理解，そして傾聴の姿勢が役立っていることが示唆された。

表1 職業上カウンセリングが役だった具体例

<p>〈保護者対応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との信頼関係を築く時や、言いにくい出来事を伝えなくてはならない時など、相手のことを考えたり、カウンセリングのスキルを思い出して取り入れてみた。 ・保護者面談をした時、沢山話してくれた方が多い。面談時間の15分があつという間に過ぎてしまい、次の日から保護者との距離も近づいたかなと思った。 ・クレームを行ってきた親に対し、受容を持って話す。繰り返してあげる。上手く話を整理したり感情も繰り返したりする事で、ずいぶんとスッキリしたお顔で帰った。 ・保護者から相談されることがあるが、アドバイスを求めていることもあるが、聞いて欲しいという気持ち大きい人もいて、カウンセリングの授業で習ったことが役立っている。 ・具体的なアドバイスを沢山するのではなく、保護者がどうしたいのかをとにかく傾聴し受容することで、保護者本人が答えを見つけて子どもと接することができるようになった。 ・まず受容して共感する。これだけでも保護者が抱えている不安な気持ちや思いをずいぶん知ることができた。相手の思いを理解して初めて適切な対策がとれる。 ・学校の面談。保護者の相談にのる時。まず相手の話を聴く。うなづき肯定的に聴く。時に正面でなく横に座ること。 ・保護者との関係作りで受容と共感がとても効果的。カウンセリングの演習は、日々の保護者との連絡を取り合う際にも役立っている。 ・保護者とのやりとり。心理学を学ぶことで人との関わりの楽しさを知り、より人とのつながりを持つ。大切にしようとする気持ちになるから。 ・子どもの送迎の際に会話が弾むようになった。コミュニケーション下手でも相応に対応できるようになった。人の温かさを感じられるから。 ・日々の保護者との会話や面談の中で話しを続けられる。 ・精神的な面で不安定な保護者への対応で、傾聴の姿勢や言葉の使い方、とらえ方など。 ・面談で親御さんが言っていることにまず共感してからこちらの考えを話す。 ・保護者と信頼関係を築くためには、まず保護者の話をじっくり聞き、共感していくことが大切であるといつも心にとめていたことが、プラスになっている。 ・保護者との関わりで受容・共感が役立った。 ・保護者と関わるが多いから、1回受容と共感をするということ。 ・保護者の方と話す時。 ・保護者対応（×4）。 ・保護者面談（×6）。 ・教育相談。 <p>〈子ども対応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泣いている子、怒っている子の話を聞く時、まずは受容し共感することで自分の話もスムーズに聞き入れてくれる。 ・問題を起こした児童が自己開示してくれた。傾聴、共感的理解を示したことが良かったと思う。 ・子どもと会話したり接する時に、今この子はこんなことを感じているんだろうなということが何となくであるが、読むことができ、概ね円滑なコミュニケーションをとれた。 ・発達障害児の保育。 ・子どもと関わる時など。 ・子どもたちの話しを聴く際に役立つ。 ・生徒指導。 <p>〈同僚〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方的に話す人や周囲と上手くコミュニケーションをとれない人、落ち込んでいる先輩へ、上手く声をかけることができ、授業で学んだ受容・共感の姿勢で対応することができた。 ・「相手が話したいことを導き出す」そのための声掛けや聴く姿勢の大切さを学び、職場においても自分の話したいことではなく、相手が話したいことを大事にすることが、休憩室での先生方とのやりとりで大切である。 ・同僚からの相談を受けたときに活用している。 ・同僚とうまくやっていくためにも、どのように話しをするかで、カウンセリングが役立つ。 <p>〈顧客対応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトで接客をやっているが、お客様が何を求めているのか、お客様が言っていることを理解するうえで役だった。 <p>〈複数場面・全般的対人関係〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「受容と共感」は保育の場面（子ども）や保護者対応時（連絡ノートや応対）の基本的な姿勢であると思う。 ・相づちの打ち方や質問の仕方が役に立っている。相手の話しをよく聴くこと、相手の気持ちに共感することは心がけている。 ・同僚、先輩方との話し合いでも、子どもたちとの個別相談でも、話し方聴き方の基礎を学んでいたのも、とても話しやすくなった。 ・保育所内外の研修で保護者対応やメンタルヘルスなどの話を聞くとき、在学中に学んだ知識があるので、理解が楽にできた。 ・子どもや保護者との関わりの中で役立つ。 ・保護者や職員とのコミュニケーション作りに役立っている。話し方聴き方など良くなったと思う。 ・話しを聴くことは重要であるから。 ・人の話を聴く技法が身についた。 ・保護者に対しても、職場の中でも、人間関係が大切だと思うから。 ・受容、共感、理解を基本的な会話でもするようになったので、「優しいね」とか「ありがとう」とか言われる機会が増えた。 ・受容と共感が子どもや保護者との関わりの中で役立つ。

表2 カウンセリングでもっと学びたいこと

<p>〈保護者対応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者対応. 保育士になって今, 先生方の授業を改めて聴きたいと思う. ・保護者とその児童について話す時. ・保護者支援. いろいろな考え方をする保護者の方がいるので. ・保護者の方と話す時に役立つカウンセリングスキル. ・保護者対応 (×2). ・一方的に話す保護者への対応. <p>〈子ども〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気になる子との接し方. 子どものほめ方, 叱り方. ・不登校の子どもにどのような声掛けをすれば良いか. ・高学年女子とのつきあい方. ジャイアン的男子との関わり方. ・子どもの心理. ・児童にも簡単に広められるようなカウンセリングを知りたい (興味を引かれるような). ・子どもへのカウンセリング. <p>〈障害・病・特定の対象〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人や保護者が病気であったり障害を持っている際にどのような言葉をかけたらよいのか. 病気や障害についても知りたい. ・心の病を抱えた保護者に子どもの様子を伝えたりする際負担になりすぎない言葉のかけ方. 愛情不足の子への対応も今苦戦しているので知りたい. ・障害児を抱えた保護者, 障害を抱えた保護者などのカウンセリング事例, 実技. ・障害を持っている保護者と関わる時に生かせるカウンセリング. ・精神疾患を抱えている子どもへの関わり方. どこまで踏み込んでいいのか, どんなことがタブーかなど. <p>〈事例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在学中には事例について考えてもなかなか具体的に考えられなかったが, 経験を積むと分かっていくことが増えた. ・具体的なカウンセリングの実践例, 学術的なデータなど. ・様々な事例や対応法. <p>〈コミュニケーションスキル〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションが取りにくい相手とコミュニケーションを取る方法. ・スキルについてもっと具体的に学びたい. ・相手の話をより深く聴くこと. ・話し方. ・精神的に悩んでいる方との話し方など. ・上手なコミュニケーションの技法. ・話しの引き出し方. ・コミュニケーションの方法. <p>〈大学の授業の再学習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の授業を振り返り今の実践に繋げたい. ・在学中に学んだことをもう一度学びたい. 今もう一度学んだらもっと理解が深まりより活用できる. ・大学時代教えていただいた事でも忘れてしまっていることも正直多い. 社会に出て改めてカウンセリングの必要性を実感し, もっとしっかり勉強しておくべきだったと後悔している. 再度学びたい. ・学び直したい.

【引用文献】

- 1) 若林明美「養成校におけるカウンセリングの授業についての実態調査」日本保育学会大会発表論文抄録, 2001, 620-621
- 2) 土屋貴之「ピア・サポートの可能性」大学と学生 87, 2010, 620-621
- 3) 加藤千恵子・高岡哲子他「ピア・カウンセリング授業に関わった大学生の変化」地域と住民 29, 名寄市立大学道北地域研究所, 2011, 15-23
- 4) 山田剛史「ピア・サポートによって拓かれる大学教育の新たな可能性」大学と学生 (87), 2010, 6-15
- 5) 有沢孝治「大学生の共感性の育成に関する実践的研究: カウンセリングのロールプレイを通じて」東海大学紀要 15, 2007, 1-15
- 6) 前堂志乃「大学生のカウンセリングに対するイメージの変化と心理学を学ぶ実感についての研究: 自主的体験プログラムとの関連を中心に」沖

縄国際大学人間福祉研究3(1), 2005, 1-35

- 7) 大橋恵・岩崎智史・藤後悦子「心理学を学ぶことの効果について—心理学の学習がその後の社会人生活でどのように役立ったか」東京未来大学研究紀要6, 2013, 13-21
- 8) 石川洋子・井上清子「上級生から下級生へのピアカウンセリングの試み2」文教大学教育学部紀要46, 2013, 69-76
- 9) 石川洋子・井上清子「保育者におけるカウンセリング学習ニーズ：埼玉県内の保育所・幼稚園の保育者調査から」文教大学教育学部紀要43, 2009, 25-30